

文科省の松浦室長が資料 35-4(超小型衛星研究開発事業)を 5 分程で説明した後、10 分程の質疑応答があった。  
(録音に失敗したので、要点のみ記録した。)

井上:これは 5 カ年計画だと説明した様だが?

松浦室長:そうである。

井上:和歌山大学がやると云う事だが、他の大学との関係は?

松浦室長:契約は和歌山大学との間で行うが、此処に書かれた多くの大学との共同作業で取り組む事になる。

井上:国に任される事を、大学に任せている<sup>1</sup>様に見えるが?

松浦室長:大学中心が良かろうと云う考え方に立ってこの事業を企画した。また、選定に当たっては国際協力の可能性も視野に入れ<sup>2</sup>た。

---

<sup>1</sup> 同感であるが、此の処其の様な文脈での誘導が行われて来た。何の為に宇宙の活動を行なうのかについての議論をもっと深める必要があると思う。大学の活動は教授の関心が向かう方向に誘導されると云う基本がある。宇宙の活動を通じて何かを見出したいのである。其れが国家の長期的な発展と安定につながると云うのは喜ばしくはあっても関心事ではない。其処に関心を集めるのが国家事業であるから、今の処宇宙は国に任される仕事だと云う事になる。処で、ISAS も大学の中に作られた機関であるが、長い間の活動を通じて、国としてあるべき姿を考え、其れを深めて来たので、国に任される仕事を担って来たのだと思う。

<sup>2</sup> APRSAF も同じであるが、何故宇宙活動で東南アジアを意識するのか理解に苦しむ。先ず、東南アジア対象の外交戦略と整合

井上:中須賀先生のやって居らっしゃる事との関係はどうなっているのか? 中須賀先生は「ほどよし」(?)と呼ぶ活動をなさっている。

松浦室長:お金は綺麗に分ける様にしているが、様々な基盤を共有して進める事になる。

井上:此の活動の経費の分類は?

松浦室長:補助金である。

池上委員長:此の経費はピンハネはあるの? つまり、インダイレクト経費は認められるのか?

松浦室長:執行のみの予算であり、インダイレクト経費は認められない。

池上委員長:15 億円と云う事は毎年 3 億が使えると云う事?

松浦室長:単純に計算するとそうなるが、年度毎に予算要求するので、中々容易な事ではない。

森尾:コンステレーションと云うからには、1 機や 2 機では駄目なんでしょう。

松浦室長:研究を開始したばかりでまだ明確ではないが、大体 1 機 3 億で作れて、4 機程度で実施出来る<sup>3</sup>と考えている。

---

しなければならないが、宇宙開発委員会活動の中で其の様な勉強会が開催された事が無い。また、経済的に見ても左程大きな市場は期待できない。更に、日本は覇権主義的な考えを全く持たないのに、何かと中国の動静を気に掛けている。

<sup>3</sup> 正味の経費として 15 億円(部品取得と特殊な試験施設使用料が中心)で、人件費を含まないのであるから、少ない資金で結構な事が出来るのは分かるが、総額として結構大きな資金である。

森尾: アジアからの貢献と云うのは、お金を出す事も含まれるのか?

松浦室長: お金も問題でややこしくしないようにしたい。「此の様な部品が提供出来るので使って貰いたい。」と云う申し出があれば、其れを採用すると云う方向を考えている。

池上委員長: 国際調整と云うものは大変難しい<sup>4</sup>、フォローアップを確り行って貰いたい。

松浦: 各先生方の活動を、今後確り見ながら取り組みたいと考えている。

池上委員長: 中で見るとはどうでしょう?

松浦室長: それは...

池上委員長: 本省の方もフォローアップする様に。また、日本主導と云う処にどう云う意味があるのかを考え、日本のプレゼンスを上げる様に。

松浦室長: 秋山先生はそう云う方ですので...

池上委員長: 他に何件あったんでしたっけ。7 件ですか。落ちた不満と云うのも気に掛け<sup>5</sup>て進めて下さい。

紙面に余裕が出来たので、一寸離れた事を書く事にする。

HTV のリスク管理に関し、FMEA を使ったリスクの洗い出しで計上漏れを心配する発言があった。此の様に範囲を限られた場合は、誰もが計上漏れを心配する。然し、範囲が広がって行くにつれ、目に付いた処だけを心配して、全てに配慮した様な気持ちになりがちである。

宇宙空間での活動全体を考えた場合に、何をやるべきかと云う行動方針案に見落としが無いのか、夫々の個別行動に注ぐ資源の配分は適正なのか、そう云った処での見落としが起り易いのを心配する。「良い事をやって何が悪い。」と云う、単純に目の着いた処だけへの対応になってしまい、「全体を見たらもっと大切な事がある。」と云う気持ちを押さえこんでしまわないか。

井上委員が折角「国に任せる事を、大学に任せる...」と発言なさったのに、其の後一言も言及が無かった。此れこそ宇宙開発委員が真剣に議論して頂きたい処であるが、其れを為さらなかったで、余計な事かも知れないと思いつつ書いてしまった。

---

宇宙の活動の特徴から考え、寧ろ資金は集中させる事が必要なのではないだろうか。

<sup>4</sup> 相手のある事だから難しいと云う意味の様だが、基本的な外交方針と整合を取る事の難しさも含まれているのだろうか。

<sup>5</sup> 此の枠組みの中で選に漏れた不満に緻密に対応するより、ISSでの宇宙実験に於ける各種不満への対応の方が優先するのではないだろうか。更に言えば、国家目標ともっと直結する領域への資金注入は十分なのだろうか。